

市民活動団体紹介

札幌市市民活動サポートセンター登録団体をご紹介します。
このコーナーは編集ボランティアスタッフが担当しています。

北海道ブータン協会

ブータンは、国民総幸福量（GNH）の増加を目標に国づくりを進めるヒマラヤの王国です。その豊かな自然や穏やかな人びとに魅せられた道民と、縁あって道内に暮らすブータン人とが集って親睦を深める「北海道ブータン協会」は、北海道とブータンとの友好・親善にも努めています。年に4回の例会のほか、仕事や留学で来道したブータン人との懇親会、ブータン料理を作る会、ブータン訪問の報告会、ヒマラヤの自然や花を紹介する講演会なども開催しています。



▲ 民族衣装の「ゴ」を着たJICA研修生チミリンジンさんを囲んでの懇親会

【問い合わせ】011-373-7414（高田）／hryk-takada@kyi.biglobe.ne.jp

食物アレルギーの会北海道 とれふる

「食物アレルギーの子どもを持つ親同士思いを共有し支えあっていく」ママ友の集まりから会が立ち上がり8年目を迎えました。
色々な場面で悩み迷った時に、仲間がいることがどんなに心強い実感しています。また札幌市教育委員会と学校給食のアレルギー対応について意見交換ができるのも団体だからこそ。私達の声も反映され、徐々にアレルギー対応給食が進んでいます。



▲ 主な活動場所は札幌エルプラザです。入会資格のある方の見学大歓迎です！

【会員資格】食物アレルギーの子どもをもつ家族で北海道在住の方

【問い合わせ】mail@torefuru.com（山田）／URL:http://torefuru.com/

特定非営利活動法人digital北海道研究会

私たちは、誰もがいつでもどこでも必要な地理空間情報を使うことができる社会を目指して活動しています。地理空間情報とは、人工衛星や飛行機で撮影した地上写真を収集・解析し、そのデータを利用目的に沿った形で加工・提供したものです。たとえばスマートフォンで災害時の緊急避難場所を探すなど、一般の方も活用できるシステム構築に取り組んでいます。この秋には市民の皆さまに向けたイベントを札幌で開催する予定ですので、ぜひお越しください。



▲ 大学や民間企業、自治体とも相互に協力しています

【問い合わせ】office@dghok.com（藤原）／URL:http://dghok.com/

NPO森へいこうよ

藻岩山、円山、北大植物園など、市内にある「癒しの森」の中を五感を研ぎ澄ましなが、ゆっくり歩くことで、心身をリフレッシュする活動を行っています。

身近にある豊かな自然の中で、立ち止まって目を閉じて小鳥のさえずりを聞いたり、大きく深呼吸して土の匂いを嗅いだり、素手で木肌の温もりに触れてみたり、少し見方を変えて歩くことで、今まで気付かなかった「森のパワー」を多くの皆さんに感じ取っていただきたいと考えています。



▲ 森のパワーで、日頃のストレスも解消（平取町にて）

【問い合わせ】qq7n9af9k@deluxe.ocn.ne.jp（加藤）

特定非営利活動法人モエレ沼公園の活用を考える会

札幌のモエレ沼公園は、世界的な彫刻家イサム・ノグチによってマスタープランが描かれ、ゴミの埋立地から感動的な美しい空間へ再生された世界に誇れる都市公園です。

私たち「モエレ沼公園の活用を考える会」は、公園の魅力や価値を伝える広報活動、公園を活かす創造的活動、公園をより豊かにする環境活動、を柱としてこの公園の理念や設計思想が多くの市民に引き継がれ、生き生きとした空間として活用されることを目標に活動しています。ぜひ一度公園を訪れてみてください。



▲ モエレからおとがうまれる -ログドランをたたこう-

【問い合わせ】moerefan@moerefan.or.jp（岡田）

NPO法人札幌カラス研究会

生ゴミを荒らし、時に人を襲う都会の困り者カラス。当会の目的は、保護ではありません。共に生きるものとして、より良い関係を築くことです。接し方次第で、無用な摩擦はすいぶん減るのです。写真展やホームページで、カラスの生態・行動に関する正確な知識を伝える活動をしています。

良く知れば、賢く愛らしいカラスに、ソッコン参ってしまうかも？まずはハシボソガラスとハシブトガラスの見分けから始めましょう。



▲ 都会を満喫する冒険家、クチバシ太い山賊頭、カーアと鳴くのはオイラ、ハシブトだ

【問い合わせ】butoboso@agate.plala.or.jp（中村）

みんなのしみサポ 40号

- ◆発行日：平成27年9月
- ◆発行：札幌市市民活動サポートセンター
指定管理者：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
- ◆住所：〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ公共4施設2階
- ◆アクセス：JR札幌駅北口より徒歩3分
（札幌駅北口地下歩道12番出口横から直通）
- ◆電話：（011）728-5888 ◆FAX：（011）728-7280
- ◆HP：http://www.shimin.sl-plaza.jp
- ◆facebook：https://www.facebook.com/shimin.sl.plaza



みんなのしみサポ 編集ボランティア活動の様子



「今回は、こんな特集で」「私も取材に参加してみたい」新メンバーも加わり、ますます賑やかになった編集ボランティアの企画会議

『みんなのしみサポ』は編集ボランティアスタッフと札幌市市民活動サポートセンター職員が協力して作成しています。



みんなのしみサポ

札幌市市民活動サポートセンターはNPOやボランティア活動などの市民活動を支援する拠点施設です。

防災

災害は、ひとたび発生すると人の力ではどうしようもない事態を引き起こしますが、その被害を最小限に防ぐため札幌にはさまざまな取り組みを行っている市民活動団体があります。知っていますか？ 札幌の防災の話。

冬に大きな災害が起きたら…

北海道は、海に囲まれているため、海溝プレートの影響から地震や火山が多いです。また、冬季は北海道特有の気象災害等（雪害）による孤立が考えられます。冬季災害時は、除雪から始まるので情報収集や救助・支援に時間を要します。

「防災士」とは、“自助”“互助”“協働”を原則に、地域のさまざまな場で防災・減災のために活動するプロの集まりで、全国に10万人ほどがいます。平常時には、防災講演や啓蒙活動、各種イベントにて、地域の人々に減災を呼び掛けています。災害時には、各地域の防災士からの情報を基に、公的機関を中心に各ボランティア団体と協働して、救援・支援活動を行います。

私たちは「自身を守る」ために、身近な災害や過去の災害、二次災害を想定し、地域の防災・減災貢献に望みます。「受け継ぐ、伝える、広げる」ために、連携仲間を探しています。



NPO法人 日本防災士会 北海道防災士会（「ほっかいどうの防災教育」認定団体）
メール mail@hokkaido-bousaishikai.com
URL http://bousaisikai.blog.fc2.com/blog-category-1.html

水災害の防災教育

想定外の洪水が起きた時は、素早かつ確かな避難が大切です。特にゲリラ豪雨は同じ市内でも地域により危険度が異なるから怖い。しかし、その時自分のいる所が安全が危険が知っておくことで、被災する確率を低くすることができるのです。

教育開発研究会では、洪水時に危険な場所をワークしながら感覚として学ぶアクティビティ「マイハザードマップ」を活用し、小・中学校で水の防災学習を行っています。このアクティビティでは、自分達の生活空間を考え単純化することで、実践的でリアルなわかりやすい防災教育ができます。さらに、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め伝えるための環境教育プログラム「プロジェクトWET」の資格取得の講習も実施しています。

マイハザードマップを普及することで、地域防災力・地域教育力の向上に繋がってほしいです。（池田 浩一さん）



教育開発研究会 TEL 090-9753-7155
メール ikeda-pf@jcom.zaq.ne.jp

“もしも”の時の備えをしませんか？

災害は、大きく分けて『人災』と『天災』があると思いますが、どちらも「まさか起きるとは…」という気持ちになることが本当に多いのではないのでしょうか。そんな“もしも”の時のために、やはり日頃の備えがとても大切になります。

「もしも北海道」は日々の生活の延長上に災害が起きると考え、もしものときってどんな時？必要なものってなに？を考えるための冊子「家族みんなのもしもBOOK」を作成しています。災害時に必要な身の回りのものは年齢や性別によって人それぞれと違うと思います。市販されている防災グッズに頼りきるのではなく、自分だけの「もしもセット」を家族や周りの人たちと一緒に準備し、防災を考えるためのきっかけにできたらと思っています。

また、災害時に置かれる状況は人それぞれだと思います。住んでいる地域に起こりうる災害を知り、いざという時に知恵を出し合い協力し合えるように、私たちの活動が防災意識を高めるきっかけになると嬉しいです。（大橋 二三子さん）



もしも北海道
メール メール：futthi@gmail.com
URL URL：http://blog.goo.ne.jp/tetsuko5

非常通信を担う頼もしいボランティア達

普段多くの人が連絡手段に使用している電話やインターネットは、災害時は大変繋がりにくくなります。そういう時に無線は大きな力を持つのです。

「NPO法人ラジオ少年」はアマチュア無線家で組織するアマチュア無線普及活動を行う団体です。アマチュア無線家は、普段は無線通信技術の情報交換を行う仲間ですが、災害時には協力して地域から行政機関へ情報提供を行います。北海道のアマチュア局数は約4万局。道内人口の1%弱にあたり、都市や地方、離島にもアンテナがあります。北海道南西沖地震以後は「北海道非常通信ネットワークコントロール局」を構築し、毎月1回、大規模災害を想定して非常通信の全道的な訓練を行っています。

無線は大切なライフライン。近所に写真のような大きなアンテナを見かけたら、大規模災害時の情報の伝達の基地となるので覚えておきましょう。（原 恒夫さん、市川 勝治さん）



NPO法人ラジオ少年 TEL 011-827-2801 メール ja8atg@jarl.com
毎月第二土日にアマチュア無線の資格を取るための講習会を開催しています。

市民活動 ズーメイン!

編集ボランティアスタッフによる体験取材コーナーです!



今回、ご紹介するのは…

アイヌ語地名研究会

札幌・江別・苫小牧など、北海道の市町村名のうち、約8割がアイヌ語に由来しています。アイヌを知る事＝北海道を知る事。今回は、アイヌの魅力に迫ってみました!

第19回アイヌ語地名研究大会にて



◀ 秋山秀敏さん(アイヌ語地名研究者)の研究発表「アイヌ民族とフンベ地名」。フンベ(クジラ)に関係する地名は、道内に数多く残されています。そこからアイヌの人々とクジラとのつながりの深さが見えてきます

▼ 熊谷カネさん(様似民族文化保存会会長)と藤村久和さん(アイヌ語地名研究会会長)の対談。様似町岡田での昔の暮らしの思い出とアイヌ語地名について、熊谷さんと藤村会長が語り合いました



7月19日、アイヌ語地名研究会主催の「第19回アイヌ語地名研究大会」が、エルプラザで開かれました。毎年1回開催されるこの大会では、各部会(アイヌ文化を読む会、古文書を読む会、アイヌ語勉強会、アイヌ地名現地探訪、アイヌ語地名サロン)による活動報告、また研究発表や講演などが行われます。私たち編集ボランティアスタッフも参加し、知られざるアイヌの世界を垣間見た気が…。

それから数日後、編集ボランティアスタッフは「アイヌ語勉強会」にオジャマしての体験取材へ。

この会では『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』に収められている物語を、参加メンバーひとりひとりが自分なりに和訳して発表し、その後、会の代表である藤村先生が、意味や発音はもちろん、文の内容にまつわるアイヌ文化や生活習慣などを交えて解説してくれます。同じ文章でも、訳す人によって、伝わるニュアンスが微妙に変わってくるので、全員で意見を出し合いながら、最適な和訳を完成させていきます。「勉強会」とはいえ堅苦しくなく、皆さん楽しみながら参加しているのが印象的でした。ただ単に、辞書を使って文面だけを和訳するのではなく、その背景にある文化や生活習慣に関する知識を深めた上で、アイヌ語に触れると、より一層言葉の魅力が増すのだなあ、と思いました。アイヌの人々の、いきいきとした暮らしぶりが見えてくるような、そんなひと時でした。

お問い合わせ先

アイヌ語地名研究会
TEL.011-728-6400(藤村)

アイヌ語勉強会にて



◀ 浜本旭さん
アイヌ語地名で好きなのは、「シリ エトコ(大地の先)」=知床



◀ 渡辺隆さん
北海道の山名を調べるためには、その約8割を占めるアイヌ語地名の勉強が必要です



▲ 野崎宏子さん
研究会に入ってよかったのは、他の熱心な人たちの存在を知ることができたこと



▲ 馬渡悦子さん
アイヌの人たちが薬用や食用にしている植物に関心があり、アイヌ語を学び始めました



◀ 高橋和男さん
研究会に入ったきっかけは、アイヌの人々の生活を勉強しようと思ったから



◀ 編集ボランティアスタッフが参加した「アイヌ語勉強会」。休憩をはさんで約3時間、みなさんの集中力で脱帽! 知るこの喜び、学ぶことの楽しさが伝わってくるような熱い勉強会でした

前回のトライアル出展の様子▶



◆トライアル出展サポート事業「おためし!! 出展」

日時 10月19日(月)～11月2日(月)10:00～17:00
会場 札幌エルプラザ公共4施設1階エントランスロビー
出展団体募集数 9団体(1日最大3団体)
出展団体申込締切 9月30日(水)

前回のトライアル出展の様子▶

みんなの

Question & Answer

市民活動相談

最近寄せられた市民活動に関する相談をご紹介します。

Q1

私達の地域にある課題を解決したいので、活動を始めます。まだ友人と2人で話しているだけですが、NPO法人にしたいです。



市民活動相談員
吉田 三千代 さん
(さっぽろパブリックサポートネットワーク)

それは今日的な課題ですね。まず、あなたの地域で、対象となる人々はどのくらいいて、どのようなニーズがあるかなどを調べてください。次に、一緒に考える仲間を増やして、たくさん話をし、会のミッションやビジョンを共有しましょう。市民活動の基本の一つはコミュニケーションです。

法人格が必要かどうかを考えるのは、市民活動として始めてみてからでもよいと思います。法人格を持つことにはメリット・デメリットの両面があります。

A1

Q2

NPO法人でコミュニティカフェ事業を行う予定ですが、法人税の申告は必要ですか?



税務・会計相談員
瀧谷 和隆 さん
(税理士)

NPO法上の特定非営利活動に係る事業でも「継続して」、「事業場を設けて」、「法人税法の34種類の収益事業に該当」すれば、法人税の申告義務が生じます。コミュニティカフェの場合は、法人税法上の「料理飲食店業」の収益事業に該当するものと推測します。

法人税法の収益事業に該当するのかが不明な場合には、最寄りの税務署や税理士等に相談されることをお勧めします。

A2

参考図書

「途上国の人々との話し方 ～国際協力メタファシリテーションの手法」

著者:和田信明／中田豊一 みずのわ出版

インドやネパール支援をしてきた旧ソムニード(現ムラのミライ)の和田さんは、海外事業と国内事業を結びつけて事業を展開し、住民主体の課題解決を促す「ソムニード方式」を生みだしました。NGOだけでなくNPOの方にも参考になる本です。

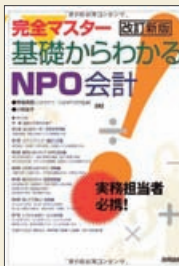


参考図書

「基礎からわかるNPO会計」

著者:馬場英朗／中尾さゆり 合同出版

NPO法人の日常の会計から税務申告まで、会計の初心者でもわかり易く解説しています。また、所轄庁に提出する書類や日々の経理業務の書式や諸規定等の事例も多数掲載されていますので、NPOの会計実務担当者にとっては、すぐにでも役立つ一冊かと思えます。



このコーナーで紹介した図書は、札幌エルプラザ公共4施設1階の情報センターで借りることができます。

お知らせ

市民活動サポートセンターから

◆市民活動相談

活動経験豊富な「さっぽろパブリックサポートネットワーク」のメンバーが相談をお受けします。

相談日時 火曜～金曜日(祝日休)15:00～18:00

◆税務・会計相談

北海道税理士会所属の税理士が法人会計等の相談に無料でお答えします。

相談日時 10月19日(月)15:00～18:00 ※完全事前予約制です。
26日(月)17:00～20:00 予約は相談日の前週
12月14日(月)15:00～18:00 月曜日までお願いします。

会場 札幌市市民活動サポートセンター相談窓口

◆NPOはじめて講座

日時 10月23日(金)18:30～20:00
会場 札幌エルプラザ公共4施設2階会議室3・4
申込締切 10月20日(火)

◆NPOマネジメント講座「ファンドレイジング講座」

日時 11月13日(金)、20日(金) ※全2回 両日とも18:30～20:30
会場 札幌エルプラザ公共4施設2階会議室3・4
講師 奥山 大介さん(日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー)
受講料 1回につき800円
申込期間 10月11日(日)～11月12日(木)

◆マチなか×NPO

市民活動団体がマチなかで集い、市民のみなさんにPR! 今年12月7日(月)～10日(木)に札幌駅前地下歩行空間北3条交差点広場[西]で開催予定です!



▲ 昨年度の様子

